



前立腺がんにおいて MRI 所見および cognitive MRI 標的生検病理診断を乖離させる要因の解明

2021年04月01日から2025年03月31日までに前立腺がんが疑われ、MRI検査後に日本医科大学付属病院泌尿器科で経直腸的前立腺生検を受けた患者さん

研究協力をお願い

当科では「前立腺がんにおいて MRI 所見および cognitive MRI 標的生検病理診断を乖離させる要因の解明」という研究を倫理委員会の承認並びに院長の許可のもと、倫理指針及び法令を遵守して行います。この研究は、2021年04月01日より2025年03月31日までに日本医科大学付属病院泌尿器科にて、骨盤部 MRI を撮影したのちに前立腺がんのために経直腸的前立腺生検を受けられた患者さんを対象に MRI や超音波の画像と生検や手術で採取した前立腺組織の病理学的所見を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただかずに、この掲示によるお知らせをもって実施いたします。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

(1) 研究の概要について

研究課題名：前立腺がんにおいて MRI 所見および cognitive MRI 標的生検病理診断を乖離させる要因の解明
研究期間：研究実施許可日 ~ 2027年03月31日
研究責任者：日本医科大学付属病院 泌尿器科 大学院教授 近藤 幸尋

(2) 研究の意義、目的について

前立腺がんの診断には現在 MRI 検査と経直腸的前立腺生検を組み合わせで行うのが一般的ですが、MRI 検査で見つけられないがんなどの問題点もあり、がんの見落としを防ぐという目的で、生検時に穿刺する本数は増加傾向にあります。生検時に穿刺する数が多ければ患者さんへの負担や合併症も大きくなることから当院では治療しなければならないがんを見落とさずに、かついかに生検の穿刺する本数を減らすか、ということを研究しています。そのために MRI 検査でがんだったのに実際はがんではなかった場合、もしくは MRI 検査で正常だったのに実際はがんであった場合の MRI 画像、手術もしくは生検で採取した前立腺組織を集めてなぜそうなったのかを研究することで今以上に MRI 検査での診断が正確にできるようになることがこの研究の目標です。

(3) 研究の方法について（研究に用いる試料・情報の種類）

2021年04月01日から2025年03月31日までに骨盤部 MRI を撮影したのち日本医科大学付属病院泌尿器科にて経直腸的前立腺生検を受けられた患者さんのカルテ情報や放射線画像や病理検査結果などを評価し、それぞれの結果について解析します。この研究は、患者さんの以下の情報を用いて行われます。

情報：年齢、性別、把握可能な診療録データ{臨床情報、採血データ(WBC、RBC、Plt、Ht、血液像、GOT、GPT、BUN、Cre、Na、K、Cl、Ca、GOT、GPT、ALP、LDH、TP、Alb、CRP、PSA)、画像情報(MRI、超音波)、病理検査の結果

試料：生検標本、手術を行った場合は全摘標本

(4) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用いたしません。また、研究発表時にも個人情報は使用いたしません。その他、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省・経済産業省）」および「同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表いたします。

(6) 問い合わせ等の連絡先

日本医科大学付属病院 泌尿器科 講師 戸山 友香
〒113-8603 東京都文京区千駄木 1-1-5
電話番号：03-3822-2131（代表） 内線：24298
メールアドレス：s4036@nms.ac.jp